平成 30 年度 学校経営計画書

学校番号 81	学校名	静岡県立浜名高等学校(定時制)	校長名	加藤 洋一
---------	-----	-----------------	-----	-------

1 目指す生徒像

(1) 教育目標

校訓「志はるかなれこそ 若き日をかくこそ惜しめ」のもと、①学ぼうとする志を大切に、将来に結びつく生き抜く力、②基本的生活習慣を確立し、ルールを守り社会に適応できる力、③人との出会いやつながりの中で感謝を大切にする心を身に付けた生徒の育成を目指す。

- (2) 目標具現化の柱
- ア 基礎学力の定着を実感する授業の実践と支援体制の確立
- イ 社会生活に適応する生活習慣の確立
- ウ 充実した学校生活を通した健全な心と体の育成
- エ 家庭・職場・地域・関係機関との連携
- オ チーム学校の推進に向けた業務の改善とその遂行
- 2 本年度の取組(重点目標はゴシック体で記載)

2	本年度の取組(重点目標はゴシック体で記載)						
	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署			
1	基礎学力の定着を実感する授業の強と支援体制の確立	○学びの充実に向けた授業環境の整備・欠席及び遅刻の減少。・授業のを選別の減少。・授業的発展学習の実施。・段階的発展学習のまなを喚起する支援体商業・情報関係の検進。・対国人生徒のための「日本語講座」の実施。・希望者による「学びなおし補習」の実施。	・「授業への出席状況は良好である」 生徒75%以上。 ・「授業をとおして新しい知識が身についている」生徒75%以上。 ・「授業に積極的に取り組んでいる」 生徒75%以上。 ・「質問には丁寧に応じてくれる」生徒85% ・「授業の内容、説明がわかりやすい」 生徒75%以上。 ・検定合格者・資格取得者が延べ100人以上。 ・外国籍生徒の全員が進級・卒業。 ・支援員との連絡会議を毎週1回以上 実施。 ・支援員の充実感が90%以上。	教務課管理職			
2	社会生活に適応する生活習慣の確立	・「友人に声掛けする勇 気」、「身のまわりの整頓と 分別」、「時間を守る」こと を重点とした社会生活成。 ・重点とした社会生活成。 ・学年対抗出席チャレン ラリーを学期ごと実施。 ・学期始めに面接週間を設け、全職員による情報交換 会を実施。 ・登校指導や校外巡視を定期的に実施。	・社会生活への適応に関する月毎の短期目標の設定と校内掲示の徹底。 ・生徒の月毎の目標認知度100%。 ・生徒の年間出席率が(休学者を除き)90%以上。 ・管理職及び職員による、登校時「呼びかけ運動」の原則毎日実施。 ・生徒の交通事故及び問題行動、年間3件以内。	生徒課教務課保健課			

3	充実した学校生活 を通した健全な心 と体の育成	〇・ミこ〇・・ア指〇・実・演行・の〇・セ・〇・〇・の学徒ニで総育給ルや路援別、実際では、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学の	・遠足、体育大会、修学旅行、ボウリング大会、カレーの日等、行事への出席率が85%以上。 ・「グッドマナー教室」、「薬学講座」、「性教育講座」「福祉講座」等、外部講師による講座を年4回以上実施。 ・「浜名高校に入学してよかったと思う」生徒90%以上・「学校行事が充実している」生徒80%以上。保護者90%以上。・「進路指導がしっかりされている」生徒80%以上。保護者85%以上。・「自分には良いところがある」生徒70%以上。・「学校に信頼できる先生がいる」生徒70%以上。・「学校に信頼できる先生がいる」生徒80%以上。・「がある」生徒0% ・健康診断後の治療率50%以上。・治食摂食率45%以上。・治育動の県大会出場又は発表会等の対外行事に参加する生徒20人以上。	生進保研修課課課
4	家庭・職場・地域・ 関係機関との連携	情報共有の充実を図る。 ・管理職による中学校訪問の実施。 ・教育活動の各家庭や企業等への積極的な広報。(ともしび通信・はまな記をもしび通信をいいでする。 ・教育活動の各家庭や企業をしている。 ・教育活動の各家庭や企業をはいる。 ・教育活動の各家庭や企業をはいる。 ・教育をはいる。 ・教育をはまなおいる。 ・大田・おいると等の配布と学校HP掲載) ・外部団体や関係機関(外国人支援や若者支援、教育相談、児童相談所等)との連携。	・PTA定時制部会出席者 30 人以上。 ・「保護者からの相談、質問に教職員 が適切に対応する」保護者 90%以上。 ・「定時制通信から学校の様子がわか る」保護者 95%以上。 ・「浜名高校に入学させてよかったと 思う」保護者 98%以上。 ・地域ボランティアとして周辺の清掃 活動を実施。	総務課管理職
5	チーム学校の推進 に向けた業務の改 善とその遂行	・情報課及び図書課の新設。 ・業務軽減に繋がる分掌横断的な協力体制の構築。 ・生徒支援に向けた情報共有システムの導入。 ・職員研修の充実。	・「生徒を職員全体でサポートできた」 教職員、支援員アンケート 90%以上 ・生徒支援に結びつく専門家の講演や 不祥事根絶を目的とした職員研修を 年間3回実施。	情報課研修課管理職